

KONDO Katsunori

近藤 克則 コンドウ カツノリ

教授

博士 (医学: 千葉大学)
博士 (社会福祉学: 日本福祉大学)

<http://mihama-w3.n-fukushi.ac.jp/ins/kkondo/index.html>

千葉大学医学部卒業(1983), 東京大学医学部附属病院リハビリテーション部医員(1985), 船橋二和病院リハビリテーション科科长(1992~1997), 日本福祉大学赴任(1997), University of Kent at Canterbury 客員研究員(2000~2001), 日本福祉大学保健福祉学科長(2005~2006), 大学院社会福祉学研究科長(2007~2008), 大学院医療・福祉マネジメント研究科長(2009~), 健康社会研究センター長(2009~).

【研究分野】

リハビリテーション医学, 社会疫学, 医療経済・政策学.

【キーワード】

長寿科学 (老年学), リハビリテーション医学, 健康格差, 医療・福祉政策, 政策評価.

【主な研究テーマ】

1. 要介護高齢者の社会疫学的研究

介護予防を志向して, 要介護状態の予防に寄与する因子についてAGES(愛知老年学的評価研究)プロジェクトのデータを用いて社会疫学的研究をしている. 個人レベルの社会経済的因子にとどまらずソーシャルキャピタルなど地域レベルの因子にも着目している.

2. 保健・医療・福祉の政策・経済学的研究

超高齢社会に備え, 医療・福祉分野の政策評価を中心とする政策科学研究にとりこんでいる. イギリスの医療政策やケアの質評価もテーマとしている.

3. 脳卒中リハビリテーションとケアマネジメントの研究

リハビリテーション患者データバンクの開発や終末期ケアにおけるケアマネジメントのあり方を研究している.

【主な研究業績】

<著書>

- 『高齢者の終末期ケアの質を高める4条件とケアマネジメント・ツール』総頁222p, 共編著, 中央法規, 2010. 04.
- 『「健康格差社会」を生き抜く』, 単著, 朝日新聞社, 2010. 01.
- 『福祉社会開発学—理論・政策・実際』, 共編著, ミネルヴァ書房, 2008. 03.
- 『検証「健康格差社会」—介護予防に向けた社会疫学的大規模調査』, 編著, 医学書院, 2007. 03.
- 『医療・福祉マネジメント—福祉社会開発に向けて』総頁211p, 単著, ミネルヴァ書房, 2007. 03.
- 『脳卒中リハビリテーション—早期リハビリテーションからケアマネジメントまで 第2版』, 共編著, 医歯薬出版, 2006. 04.
- 『健康格差社会—何が心と健康を蝕むのか』総頁208p, 単著, 医学書院, 2005. 09.
- 『「医療費抑制の時代」を超えて—イギリスの医療・福祉政策』総頁336p, 単著, 医学書院, 2004. 05.

<論文>

- 「社会排除の現実とソーシャル・インクルージョンの課題 健康格差とソーシャル・インクルージョン」, 『社会福祉学』500, 単著, 2009. 08, pp. 84-88.
- 「医療・介護保険制度改革とリハビリテーション医学の課題」, Jpn J Rehabil Med 461, 単著, 2009. 01, pp. 41-46.
- 「幸福・健康の社会的決定要因—社会疫学の視点から」, 科学803, 単著, 岩波書店, 2010. 03, pp. 290-294.
- 「地域在住高齢者の要介護認定のリスク要因の検討—AGESプロジェクト3年間の追跡研究」, 『日本公衆衛生雑誌』568, 共著, 2008. 08, pp. 501-512.

- “The different effects of vertical social capital and horizontal social capital on dental status : A multilevel analysis”, 『Social Science & Medicine』第69巻, 共著, ELSEVIER, 2009, pp. 512-518.
- “Social capital, income inequality and self-rated health in Chita peninsula, Japan : a multilevel analysis of older people in 25 communities”, 『Social Science & Medicine』第69巻, 共著, ELSEVIER, 2009, pp. 489-499.
- “Social relationship and health”, Health and Social Disparity-Japan and Beyond, 単著, Trans Pacific Press, 2009, pp. 182-207.
- 「在宅エンド・オブ・ライフケアの課題—全国調査とイギリスの取り組みを踏まえて—」, 『ホスピスケアと在宅ケア』第16巻3号, 単著, 日本ホスピス・在宅ケア研究会, 2008. 12, pp. 244-256.
- 「リハビリテーションにおける帰結研究—脳卒中を中心に大規模データベースとデータバンク」, 『総合リハビリテーション』第36巻1号, 共著, 医学書院, 2008. 01, pp. 23-27.
- <連載> 「「健康格差社会」への処方箋」, 『保健師ジャーナル』62 (10) ~63 (10), 単著, 医学書院.

<学会発表>

- 健康格差 AGESプロジェクトに見る現状と生成プロセス, そして対策の糸口, 第68回日本公衆衛生学会総会メインシンポジウム「健康をまもる社会基盤を再構築—その糸口はどこか—」, 2009. 10.
- 健康格差社会とソーシャル・インクルージョン. 学会企画シンポジウム「社会的排除の現実とソーシャル・インクルージョンの課題」, 日本社会福祉学会第56回全国大会, 日本学術会議共催, 2008. 10.

【所属学会】

日本リハビリテーション医学会(1984~, 専門医1991~, 臨床認定医1992~, 評議員2004~), 身体障害者福祉法指定医(1988~), 日本老年医学会(1990~), 日本公衆衛生学会(1996~), 日本老年社会科学会(1996~), 日本社会福祉学会(1997~), 日本医療・病院管理学会(1997~, 評議員2005~), 社会政策学会(1999~).

【社会における活動と仕事】

社会福祉士試験委員(2007~2009), 精神保健福祉士試験委員(2007~2009), 韓国保健福祉家族部老人長期療養保健諮問委員(2008~), ELSEVIER Social Science & Medicine, Advisory Editor (2009~), 厚生労働省高齢者医療制度改革会議委員(2009~), 日本医療・病院管理学会評議員(2010~2011), 日本社会福祉学会代議員(2010~), リハビリテーション医学会評議員.

【受賞学術賞】

- 社会政策学会奨励賞(「健康格差社会」—何が心と健康を蝕むのか. 2005), 2006. 06.